

1988 (昭和63) 年9月7日~10日

東京都立産業貿易センター (浜松町)

- **Home Care & Rehabilitation Exhibition (H.C.R.)**の名称を採用。第16回リハビリテーション世界会議が9月に東京開催され、H.C.R.はこれに協賛し、2回目の国際展示会とした。会場の制約で、国際規格3m×3mと従来の小間(小規模)を混在させた(海外企業の参加8か国、内訳：アメリカ19、カナダ1、イギリス5、西ドイツ2、オランダ12、ベルギー1、スウェーデン8、デンマーク28社)
- 開催告知・広報拡充のため、イラストレーター・グラフィックデザイナーの黒田征太郎氏の原画でポスターなどを作成

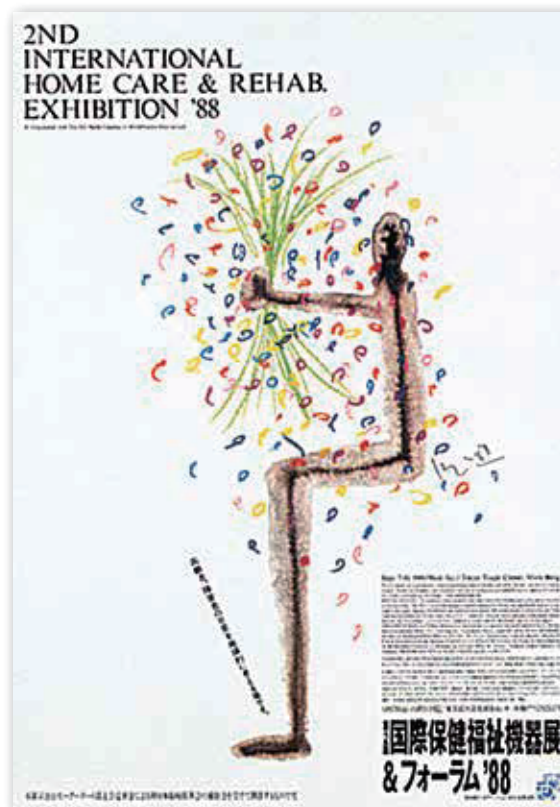
主催 保健福祉広報協会
後援 厚生省、労働省、通商産業省、郵政省、東京都、
全国、社会福祉協議会、日本リハビリテーション協会、参加、各国大使館

特別協賛 日本船舶振興会

来場者数 18,300人

出展社数 167社：海外8か国76社、国内91社

同センター本館3・4・5階展示場にて開催



[第15回 ポスター]

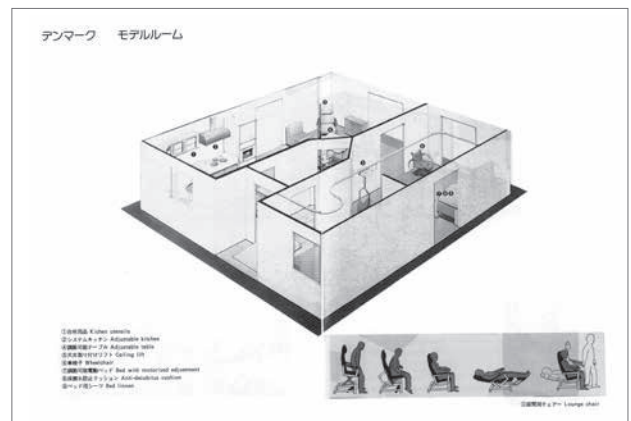
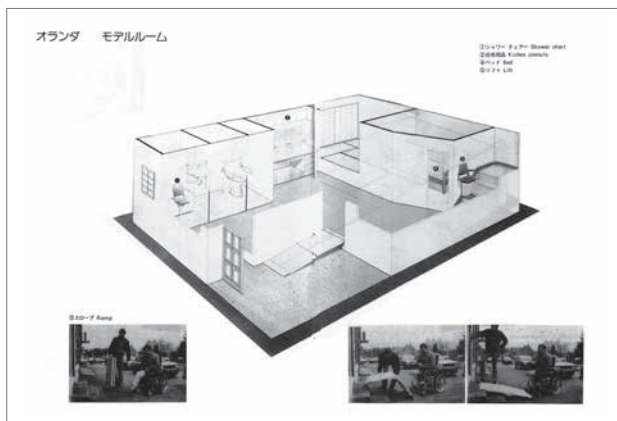
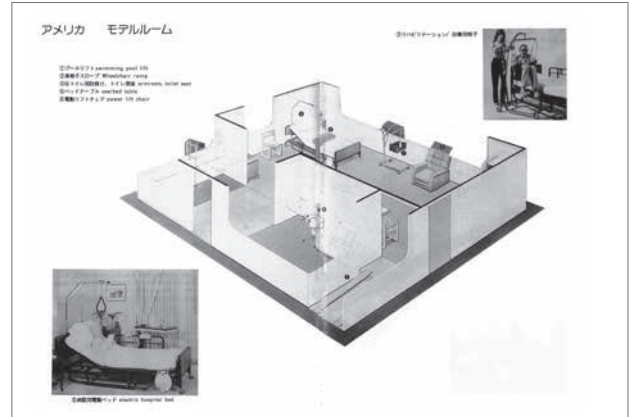
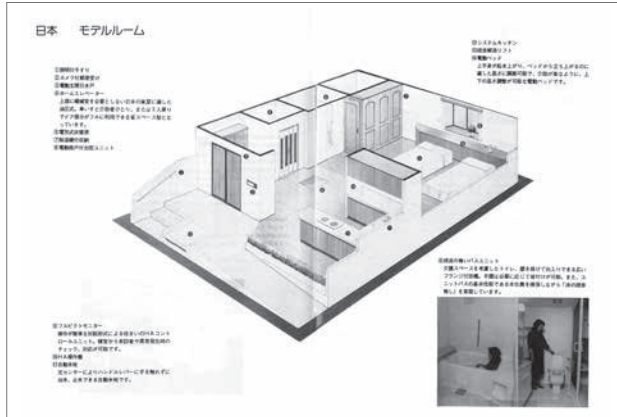


- ▶ 1988年 「長寿・福祉社会を実現するための基本的な考え方と目標について (福祉ビジョン)」 厚生省・労働省発表
- ▶ 第1回全国健康福祉祭(ねんりんピック) ひょうご大会開催

特別企画

老人、障害者のための保健福祉モデルルーム

老後は一人でできていたことができなくなる、身体機能が低下するなどの変化に応じて、住環境を改善したり福祉機器を導入することで、自立した生活の可能性が広がると、日本、アメリカ、オランダ、デンマーク、スウェーデンの4か国のモデル住居を設置し、それぞれの国の住宅様式で設計し、福祉機器などを利用する際のイメージや海外製品のデザイン性を実感できるように展示した



H.C.R. 国際シンポジウム I

保健福祉機器の 開発・普及システムの実際

アメリカ、デンマーク、オランダの専門家によるシンポジウムで、アメリカからは、1980年のホーム・ヘルス・ケアの利用状況（在宅医療・介護サービスや入院費用など医療費を削減）と、福祉機器の普及やビジネスの展望などについて政策と市場の動きの観点から報告、またスウェーデン、デンマークからは、各国の障害者と高齢者への公的な支援対策・サービスと機器の利用制度の状況、欧州の市場状況についてのレポートを行った

コーディネーター

石神重信 氏 防衛医科大学助教授

田澤英二 氏 国立身体障害者リハビリテーションセンター学院主任教官

国際シンポジウム II

アメリカの ホーム・ヘルス・ケアと 保健福祉機器ビジネス

アメリカの公的保険のメディケア、メディケイドによる在宅の医療・介護サービス利用状況、医療費の削減や入院の抑制・短期化の状況、医療・リハビリ機器などの開発とホームケア・ビジネスの促進をレポートした

コーディネーター

小室豊允 氏 大阪府立大学助教授

石神重信 氏 防衛医科大学助教授